

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：グループハウスかわかみ

施設所在地：岡山県真庭市蒜山上福田1201番地23

施設種別：共同生活援助

運営主体：社会福祉法人 慶光会

施設長名：立岡 一夫

評価月日：令和3年3月16日

評価項目（中項目）	評価結果
I-1 理念・基本方針	評価：A 理念・基本方針は年度当初の全体職員会議での確認や、ホームページ・パンフレットへ掲載によって周知を図っている。また、新任職員へは入職時に都度説明を行っている。定例会議等で理念に基づいた支援内容等を議論し、取り組んでいる。
I-2 計画策定	評価：A 現状分析により、課題や問題点を明らかにしたうえで事業計画を立て、全体の職員会議にて管理者より理念・基本方針の実現に向けた目標を明確に伝えている。また、事業所内での会議にて実施状況の把握・評価・見直しをし、課題や問題点の解決に向けての具体的な取り組みをできるところから行っている。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	評価：A 管理者の役割・責任は年度当初の全体の職員会議にて管理者より示しており、職務分掌表にも記載し周知している。また、利用者支援においては定例会議で現状の把握や評価・分析をしている。 職員の支援に対する悩みの解決や課題の改善に向け、指導力を発揮している。 重度・高齢化に伴い利用者の状況が変化しているため、業務の効率化・人員配置など継続して検討している。
II-1 経営状況の把握	評価：B 研修等へ積極的に参加し、社会福祉事業全体の動向、事業所がある地域の特徴を把握するよう努めているが、地域の特徴や変化等は把握しきれていない。経営状況の分析も会議にて把握しているが、現場職員への周知は行えていない。

評価項目（中項目）	評 価 結 果
II-2 人材の確保・養成	<p>評価：B 職員の就業状況(有給休暇の消化率や時間外労働)を把握し、労働状況の改善・働きやすい職場作りを目指し取り組んでいるが、有給取得についてはまだ積極的な取得には至っていない。法人全体で新任研修の取り組みを行う等、研修計画に基づき年間を通して研修を行っている。人事考課基準については明確に職員に示せていない。人材確保については外部へ出かけ積極的に発信している。実習生の受け入れにより、福祉職の周知を図る取り組みも行っている。</p>
II-3 地域との交流と連携	<p>評価：B 今年度はコロナの影響があり、積極的なボランティア受け入れは行っていない。また、ボランティアに対しての研修、受け入れにあたってのマニュアルは作成出来ていない。地域の福祉ニーズの把握はできておらず、具体的な事業・活動は事業計画の中に明示していない。利用者と地域のかかわりについては、限られた範囲での外出等できる限りは行った。</p>
III-1 利用者本位の福祉サービス	<p>評価：B 職場内での勉強会（障害への理解や身体介助の方法等）や支援での困りごとを話し合うこと（ストレスマネジメント）を行い、知識の習得を行っている。虐待防止に関するアンケートを職員に実施し、結果を分析・改善に向け取り組みを行っている。満足度に関する調査は行っておらず、把握するための利用者個々への働きかけもできていないため、利用者満足の向上に向けた取り組みは今後の検討課題である。</p>
III-2 サービスの質の確保	<p>評価：B 利用者個々に関するサービス実施状況の記録は、支援記録システムを利用し職員間で共有行っているが、まだまだ記録内容に個人差もみられ、記録の残し方は不十分な状況だが、徐々に改善傾向にある。支援に関する引継ぎ事項は文書化して残す等行っている。ケアカンファレンスの開催は困難なケースの際に行っているが、取り組みの振り返り・改善も時期を明確にして取り組んでいく必要がある。</p>
III-3 サービスの開始・継続	<p>評価：A ホームページを作成し公開している。利用開始時に契約書・重要事項説明書を取り交わし、サービス内容や料金の説明を行っている。見学、体験利用等の希望にも応じている。</p>
IV-1 利用者に応じた個別支援プログラム	<p>評価：A 利用者・家族の要望を確認し、個別支援計画の策定や見直しの際に取り入れている。また、見直しを検討する会議を持ち、会議に参加できなかった職員へも伝達を行っている。個別支援計画は支援の目標・方法・期間を定め、サービス開始前に説明を行っている。</p>

評価項目（中項目）	評 価 結 果
IV-2 日常生活支援サービス	<p>評価：B 嗜好調査を実施し、献立に反映している。個々の状況に応じ、食事形態や環境の整備、介助方法の検討は随時会議を開催し、対応できている。 余暇については利用者の意見を聞きながら行事などは行っているが、今年度はコロナの影響で規模の大きな取り組みや、大人数での外出等はできなかった。</p>
V-1 生活環境の整備	<p>評価：A 年々深刻化している高齢化等利用者個々のニーズを受け止めるため、既存のグループホーム（2名定員）を改修・バリアフリー化し、新たに7名定員のグループホームをオープンした。 共有空間のスペースを有効活用できるようテーブルやイスのサイズが適切になるよう検討を行い、余裕が出たスペースにソファを置いたりして、くつろげるようにした。</p> <p>。居室は全室個室になっており、プライベートな時間が持てるよう配慮できている。利用者が安心・安全に生活できるよう取り組んでいるが今後も継続して行っていく。</p> <p>。</p>
VI-1 緊急時の対応	<p>評価：B 避難訓練の実施、救急蘇生法の講習など職員が勉強する場が持っている。地域の自治会や団体等との連携は不十分であり今後検討が必要。</p>
VII-1 就労意欲の醸成	非該当

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や、未実施の場合はその理由など評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* 「VII-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。